

主要施策の概要

身を切る改革を始めとした市役所改革・運営形態の見直しの実行

自治体デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進

■ 予算額▶5億5,000万円

オンライン手続きの拡大や生成AIを活用したツールの導入、児童生徒用タブレット端末の更新等により、DXを通じた行政サービスの利便性向上、効率的な行政運営、個別最適な学びの実現に取り組みます。



プレミアム付商品券「小さなお店応援チケット」第7弾を発売し、従来の紙商品券に加え、デジタル商品券を発行することで、地域の経済循環の活性化と家計支援に加え、新規利用層の拡大を図ります。

避難所における停電対策

■ 予算額▶5,000万円

避難所となる20カ所の小・中学校の空調に併設している自家発電設備を改修し、緊急時において、その余剰電力を照明器具や在宅医療機器、通信機器に利用できるようにします。

大いなる箕面観光の復活

■ 予算額▶5,900万円

箕面駅と箕面大滝、勝尾寺を結ぶ周遊バスのルートに、箕面萱野駅を加え、延伸線の開業による観光客の増加を図ります。箕面市観光協会や大阪観光局と連携し、観光情報の充実と発信力強化に取り組みます。



大阪・関西万博へ子どもたちの招待

■ 予算額▶1億円

大阪・関西万博において、より多くの子どものために貴重な体験を味わってもらえるよう、満4歳から17歳(令和7年4月1日時点)を対象にした大阪府による招待に加え、夏休み期間のフリーパス又は一日券2枚までを選択制で配付します。

「箕面市・豊能町の今後の消防需要に基づく消防力保全計画」による消防拠点の整備

■ 予算額▶24億6,000万円

市内5カ所目の新たな消防署「(仮称)箕面中部拠点」の着工とともに、東分署の移転・建替え先である「(仮称)箕面東A拠点」の設計及び造成工事に着手します。両拠点とも令和7年度中の開署をめざします。

このほか▶コミュニティセンターの利便性向上、大阪・関西万博の機運醸成などに取り組みます。

住民目線に寄り添って直ぐ動き、日本一親切な市役所

通学路等防犯カメラの更新

■ 予算額▶8,700万円

通学路や公園に設置した防犯カメラは、その半数以上が10年目を迎えることから、まちの安全を確保するため、順次、新しい機種に更新します。

新市立病院の移転・建替え、指定管理者制度の導入

■ 今議会にて補正予算予定

老朽化が進む市立病院を箕面船場阪大前駅付近に移転・建替えし、持続可能で質の高い医療を提供する体制を構築するため、移転後は、再編統合による増床を図ります。

指定管理者制度を導入し、新病院のスムーズな開院をめざすため、現病院にて令和7年4月から医療法人協会へ運営を引き継ぐ予定です。



箕面船場地区における「健康寿命の延伸・ヘルスケア推進拠点」のまちづくり

■ 予算額▶3,900万円

船場地区で計画中の「(仮称)箕面船場阪大ヘルスケア総合センター」に、高齢者が認知機能や身体機能を測定し、気軽に健康づくりができる「(仮称)健康チェック村」を設置します。新年度から、大阪大学と連携し、設置に向けた実証事業をスタートさせます。

障害者自立支援センターあかつき園の建替え・重度障害者のための生活介護事業所の整備

■ 予算額▶11億4,900万円

老朽化が著しい「あかつき園」の令和8年度中の建替えをめざし、設計を行います。中部地域では、「(仮称)箕面市立ワークセンター中部」の令和7年度中の開所に向けて建築工事を開始します。



このほか▶障害者の意思疎通支援の拡充、重層的支援体制整備事業の本格稼働などに取り組みます。

新年度も「身を切る改革を始めとした市役所改革・運営形態の見直しの実行」「住民目線に寄り添って直ぐ動き、日本一親切な市役所」「みどり豊かで住みたい、子育て・教育日本一のまちづくり」の3つの基本政策により、さまざまな取り組みを進めていきます。

ここでは、その中でも重点的に取り組む事業を予算額とともにご紹介します。

みどり豊かで住みたい、子育て・教育日本一のまちづくり

1 みどり豊かで住みたいまちづくり

北大阪急行線の延伸開業

■ 予算額▶25億6,400万円

昭和43年に策定された第一次の総合計画の構想から56年の時を経て、令和6年3月23日に北大阪急行線が延伸開業します。高架橋下部工事で占有、掘削等をしていった国道423号側道や千里川などの復旧工事を行い、延伸に伴う関連工事を完遂します。



路線バスとオレンジゆずるバスのルート再編

■ 予算額▶7,300万円

延伸線の開業に伴い、路線バスとオレンジゆずるバスのルートを再編します。路線バスでは、一部路線で実証運行を行います。オレンジゆずるバスは、曜日で分かれていたルートを統一するとともに、平日の混雑緩和のため、市立病院や市役所と箕面駅・箕面萱野駅を繋ぐ平日限定のルートを開業します。



延伸線開業とバス路線再編による負担軽減・利用促進

■ 予算額▶1,500万円

延伸線と路線バスの乗り継ぎが発生し、通学費用が増加する学生を対象に、その負担軽減のため、新年度限りで、増加する通学費用の最大50%を補助します。併せて、利用促進のため、電車とバスのお得な乗車券セットを箕面市民限定で1万セット販売します。

新たな地域公共交通の仕組みの構築

■ 予算額▶6,000万円

高齢化の進展等により多様化する移動ニーズに対応した新たな地域公共交通の仕組みの構築をめざし、東部地域などの高低差の大きい地域などでAIオンデマンド交通の実証運行を開始します。

このほか▶阪急桜井駅周辺の活性化、公園のリニューアルなどに取り組みます。

2 子育て・教育日本一のまちづくり

大阪でナンバー1の新たなスタイルの小中一貫教育

■ 予算額▶1,200万円

船場地区に新設する学校は、施設一体型の中小一貫校とします。第五中学校の移転により施設一体型とし、施設分離型の中小学校とともに、複合型校舎として中小一貫教育を進めます。

新設校には、中小一貫教育に関する研究等の教育センターの機能を持たせ、中小学校も包括した大阪でナンバー1の新たなスタイルの中小一貫教育をめざします。

全学的な中小一貫教育を一層推進するため、第五中学校区など2校区に中小一貫教育推進コーディネーターをモデル配置します。



学校水泳授業における民間活用・室内温水プールの整備

■ 予算額▶6億6,500万円

北小学校、箕面小学校、豊川北小学校、萱野北小学校、彩都の丘小学校の5校で、民間プールを活用した水泳授業を先行実施します。

学校水泳授業の受け皿となり、市民も利用いただける室内温水プールを第二総合運動場に隣接する西ノ池跡地に整備することとし、令和8年度のオープンに向けて、運営と整備を担う事業者を一体的に募集し、設計に着手します。



箕面市立かやのこども園の開園

■ 予算額▶1,700万円

新箕面市アウトソーシング計画に基づき、かやの幼稚園・なか幼稚園・萱野保育所を再編統合し、市内初の公立幼保連携型認定こども園として、4月に「箕面市立かやのこども園」を開園します。

待機児童の解消

■ 予算額▶1,700万円

地理的な要素から保育士の確保が容易でない森町地域に特化した対策として、森町地域の児童を東保育所で預かるための保育送迎ステーションを設置します。

このほか▶学校施設の長寿命化改修、不登校児童生徒への支援拡充などに取り組みます。

